

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3771100611
法人名	社会福祉法人サマリヤ
事業所名	サマリヤ大川グループホーム
所在地	香川県さぬき市大川町田面1198 (電話)0879-23-2711

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年10月2日	評価決定日	平成20年10月24日

## 【情報提供票より】(20年9月16日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年10月1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9名
職員数	7人 常勤 1人, 非常勤 6人, 常勤換算 4人

### (2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋造り 1階建の1階
------	--------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	10,000円+実費	
敷金	有( )円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	( )円	
食材料費	朝食	250円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	0円
	または1日当たり 950円			

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	8名	男性	3名	女性	5名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	73歳	最高	92歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	さぬき市民病院 陶山医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者や職員は、利用者にとっても優しく愛情をこめて接している。ある職員は、帰宅する折利用者一人ひとりに挨拶をしてホームを後にしている。まさしく理念の愛を実践している。介護の面でも些細なことであるが、車椅子の利用者さんが車椅子で食卓に着くのではなく、介助移動により食卓の椅子に座り自然な形で楽しく食事をしている。当グループホームは、少し高台にあり旧家を改築したもので洋間と和室の居室があり、特に和室(畳・障子・床の間・欄間など)は家庭的な雰囲気があり、軒下では犬を飼っており利用者に馴染みやすい。庭の畑には季節の花(コスモス)が咲き、家庭菜園も楽しむことができる環境下にある。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、「鍵をかけないケアの実践」が改善課題となっていたが、昼間は帰宅願望の強い利用者により優しく見守ることを、全職員が共有し改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は、自己評価の意義をよく理解し改善すべき事項については、改善に向けて全職員一丸となって取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回定期的に開催している。毎回議題(例:利用者のケア、行政からの情報、災害対策など)を決めて話し合い、当グループホームが地区の避難場所にどうかと、現在検討中ではあるが前向きに取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に手作りの意見箱が置いてある。また、運営推進会議に家族代表の参加もあり発言する機会をもうけている。面会時には、家族に直接聞き取りをしているが今のところ意見・苦情・不安は、伝わってこない。本人・家族ともに安心されていることがうかがえる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会(自主防災組織)に加入し、地域の行事(春の花見、ふれあいサロン食事会、秋の祭り、掃除など)に参加している。また、グループホームの行事(春の花見、秋の祭りなど)には、地域の方々に案内し相互に交流・連携を深める努力をしている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時よりサマリヤの法人理念「愛」隣人を愛せよ、「忍耐」見守り続けよ、「技術」的確な介護技術に務めよとがある。しかし地域との交流がなされているのに理念には反映されていない。	○	既存の立派な理念に「地域密着型サービス」の一項を加えることにより、さらに事業所の鏡としての理念の輝きと共に、サービスの質の向上に取り組まれることを望む。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関には額入りで立派な理念が掲げられている。管理者や職員は、常に理念を念頭に入れて利用者に接している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域からの依頼(清掃作業)や行事(春の花見、年数回のふれあいサロン食事会、秋祭りなど)に参加している。また、グループホームの行事(春の花見、秋の祭りなど)に地域の方々に案内し、お互いに交流・連携を深める努力をしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は、自己評価・外部評価の意義を理解し、改善すべきことは全職員が一丸となって取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者のケア、行政からの情報、災害対策など議題を決めて、2か月に1回定期的に開催している。災害対策では、当グループホームが地区の避難場所にどうかと提案があり討議し、現在地区で検討中であり前向きに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には、市町から毎回3名の出席がある。また、運営推進会議の議題など相談ごとに助言をいただいたり、サマリヤ大川の秋祭りなどに案内をし、連携を深めサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常生活状況などについて、電話・手紙で連絡しているが、面会のある家族には直接伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には手作りの意見箱が置いてある。また、家族の面会時に直接お聞きしたり、運営推進会議にも家族代表が参加しているが、意見・不満・苦情は伝わってこない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は、離職された後任のみで最小限にしている。利用者にはチームで関わりをもち、利用者の不安への配慮に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、運営者から指定されて連絡があり出張扱いで参加できる。内部研修については、単発的であるが多くの職員が参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サマリヤ大川の法人内では、蜜に交流・連携はしているが、法人外の地域の同業者との交流は、話し合いはしているが交流の機会を持つまでには至っていない。	○	地域の同業者との交流により、お互いの利用者によりよいサービスが提供されるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所が決定すると、本人および家族にグループホームの全てのことについて納得できるようよく説明している。入所後は見守りを主とし、利用者が以前の住宅生活と同じように過ごせるよう、その場の雰囲気に徐々に馴染むように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と犬を飼育するなど共に生活する中で、人生の先輩として、わけぎの植え方や調理法など学ぶことも多々ある。利用者のできないことは支援してよい関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と犬を飼育するなど共に生活する中で、思いや暮らし方の希望、意向を会話・視線・表情・動作から把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者と家族の要望をよく聞き、担当者会議で利用者の立場になって話し合い作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護度の更新時には見直しをしている。利用者さんに変化が生じた時は、職員などで話し合い臨機応変に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が要望する外出、買い物、外食、先祖の墓参りなど、介助や移送などの柔軟な支援に努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの協力医院が24時間対応してくれる。また、緊急時は往診もしていただける関係なので、家族も安心している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアについて、利用者、家族の意向を確認しながら、かかりつけ医、ケア関係者とよく話し合って支援できるよう努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者や職員は、常に利用者の人格を尊重し言葉がけなど対応に配慮すると共に、個人情報の記録などは鍵のかかる処に保管し保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、利用者が自由に過ごせるよう見守っている。また、個々人の希望に沿って支援できるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ある利用者は、職員と共に食事の準備から料理・盛り付け・配膳・片付けなどをするを生きがいにしている。他の利用者もできることを手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日・時間帯は決まっているが、利用者の希望に沿って臨機応変に介助支援するよう努めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を考慮した個々人の楽しみごと(例; 家庭菜園・犬の世話・洗濯・料理など)を生きがいサービスとし支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候にもよるが1日1回、散歩・買い物・外食・自治会の食事会などで外気にふれる機会の支援に努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は、見守りを続け鍵をかけないケアに全職員が取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の防災組織に加入して、地域の協力が得られるよう努めている。また、災害にたいして食料の備蓄もしている。しかしここ近年避難訓練を実施していない。	○	以前避難訓練は実施したようであるが、現在の利用者には避難経験のない方もあるとのことで、災害時(火災・地震など)安全が確保できるような取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合わせて刻み食、お粥などを提供している。1日の栄養摂取量や水分量は観察し記録により把握して対応に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、段差を少なくするために足台がおいてある。居間は広くソファがあり自由に座り思い思いに過ごしている。角には喫煙コーナーもある。窓からはコスモスなどの花が見え季節感を味わうことができ、居心地よく過ごせるよう努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室は、畳・障子・欄間・床の間・馴染みの整理ダンス・仏壇・思い出の写真、花瓶には季節のコスモスが生けてあり、家庭と同じような環境下で過ごせるよう努力している。		